

## エイプリルフールと情報の免疫力

4月1日はエイプリルフールです。「この日は嘘をついても許される」とされる風習で、古くから世界中にあるようです。しかし、近年、その存在感が薄れてきている気がします。インターネットが発達した現代の高度情報社会においては、虚偽ない交ぜ、真偽不明の大量の情報が毎日世間に流布されており、言わば一年365日がエイプリルフールの様相を呈しているからです。

しかも、往々にして嘘の情報ほど伝播力が強いようで、大手報道機関が嘘の情報を信じてそのまま真面目にニュースとして流すと言った事件も起こっています。英国の元首相ウィンストン・チャーチルが言ったように、「嘘が地球を半周したころ、真実はまだズボン履こうとしている」状態はよくあるのです。

現在、世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症に関しても、間違っただ情報や誤解を招く情報が多々出回っています。総務省の「新型コロナウイルス感染症に関する情報流通調査」(2020年6月)によると、多くの人が新型コロナウイルス感染症に関するデマやフェイクニュース(虚偽報道)を見聞きしており、情報の真偽を判断出来なかった傾向がみられるそうです。そして、間違っただ情報や誤解を招く情報を見聞きした場合に共有・拡散したことがある人の割合は35.5%だったとの結果が出ています。

根拠の乏しい情報の流通、拡散は、取り返しのつかない風評被害や差別、偏見を生みかねません。そうならないためには感染防止対策と同様、個々人の自覚と節度ある行動が大切です。データの加工が恣意(しい)的かどうかを自分で考えるなどの癖をつけ、情報の真偽を判断する力を養う、いわば「情報の免疫力」を付けることが重要であると識者(山口真一・国際大学准教授)は指摘しています。集団免疫獲得をめざすワクチンの住民接種も本格的に始まります。新型コロナウイルスを「正しく恐れて」対処することが必要です。

せめて、今年のエイプリルフールは軽く笑い飛ばせるようなユーモアあふれる楽しい嘘で、世の中を少しでも明るくしたいものですね。

